

P-33

GH19キチナーゼとしては異常に高い分子量をもつ *Aeromonas* キチナーゼの構造と機能

○河本大毅, 西平知世, 大沼貴之, 上田光宏*, 深溝 慶

(近畿大院・農, *阪府大院・生環)

The structure and function of a family19 chitinase from *Aeromonas* sp. No.10S-24

Daiki KAWAMOTO, Tomoyo NISHIHIRA, Takayuki OHNUMA,
Mitsuhiko UEDA* and Tamo FUKAMIZO

Department of Advanced Bioscience, Kinki University, 3327-204, Nakamachi, Nara, 631-8505, Japan,

*School of Life and Environmental Science, Osaka Prefecture University,

1-1, Gakuen-cho, naka-ku, Sakai, Osaka, 599-8531, Japan

E-mail : fukamizo@nara.kindai.ac.jp

Chitinases degrade chitin by hydrolyzing the β -1,4-glycosidic linkage, and are divided into two families (family 18 and family 19) on the basis of their amino acid sequences. Family 18 chitinases are widely distributed in living organisms, whereas family 19 chitinases are found mostly in plants and some prokaryotic organisms. Although family 18 chitinases and family 19 chitinases from plants have been investigated intensively, information on the family 19 chitinases from prokaryotic organisms is quite limited. We report here the structure and function of a family 19 chitinase produced by *Aeromonas* sp. No.10S-24.

【緒 言】

キチナーゼはキチンの β -1,4 グリコシド結合を加水分解する酵素であり、アミノ酸配列の相同性から Family GH18 および GH19 に分類される。様々な生物種に見出される GH18 キチナーゼとは異なり、GH19 キチナーゼは植物と一部の細菌にのみ存在する。GH18 キチナーゼ全般および植物由来 GH19 キチナーゼには、構造的および機能的多型が存在することが明らかにされているが、細菌由来 GH19 キチナーゼに関する情報は少ない。本研究では *Aeromonas* sp. No.10S-24 の生産する分子量の大きい GH19 キチナーゼの触媒ドメイン (AeroChi19 CatD, 46 kDa) の構造と機能を調べることを目的とした。

【結 果】

野生型 AeroChi19 CatD と変異体 E393Q および E393A の活性を比較したところ、変異体では活性が顕著に低下し、Glu393 が触媒残基であると同定できた。HPLC 解析により本酵素はキチンオリゴ糖の 6 糖を主に 2 糖と 4 糖に加水分解しており、植物由来 GH19 キチナーゼとは明らかに異なる分解様式を示した。熱変性実験によって T_m 値の上昇より基質結合性を評価したところ、基質重合度依存的に ΔT_m 値が上昇した。他の GH19 キチナーゼの ΔT_m 値と比較すると AeroChi19 CatD の方が ΔT_m 値が大きいことから、AeroChi19 CatD が基質に対して高い親和性を示すことがわかった。ITC による結合実験では E393A 変異体において熱力学的結合定数を得ることができ、この結合反応はエンタルピー駆動型であることがわかった。